【p52～p57】 そろばんづくり ―小野のそろばん―

1 資料活用にあたって

- 宮本一廣さんの「働くことの喜びや楽しみ」に焦点をあてれば、内容項目はC（13）となり、宮本さんの「伝統工芸を伝えていこう」という気持ちに焦点をあてれば、内容項目はC（16）となる。

2 資料の読み方のポイント

- ※ 展開の具体例は内容項目C（13）で想定したものを示している。
- 変化するのは：かず（子どもが「かず」になって考えられるように発問を工夫する。）
- 変化するきっかけ（助言）は：宮本さんの話「一人でも多くの人に使いやすいと思ってもらえるように、気持ちを込めて作っている」と、お母さんの話「宮本さんの心がぎゅっと詰まっているように」
- 変化するところは：「最初は右手で持ち上げ、すぐに両手で持ち直した」

3 読み物資料の素材について

【参考URL等】

- ・ 小野市HP <http://www.city.ono.hyogo.jp/p/1/4/4/4/>
- ・ 伝統工芸 青山スクエアHP <http://kougeihin.jp/item/1004/>

【訪れたい場所】

- ・ 小野市伝統産業会館 〒675-1380 兵庫県小野市王子町 806-1 TEL：0794-62-3121
- 宮本 一廣（みやもと かずひろ）さんについて
 - ・ 播州そろばん（杵造組立部門）伝統工芸士で小野市に在住。昭和31年より現在の仕事に従事し、昭和51年、播州そろばんが通産大臣（現経産大臣）指定伝統的工芸品となり、同年、宮本さんも伝統工芸士の認定を受けた。平成20年瑞宝単光章を受章のほか、数々の賞を受賞する。
- 伝統工芸士とは
 - ・ （財）伝統的工芸品産業振興協会が行う試験に合格した者が、「伝統工芸士」の称号を有する。受験資格として、経済産業大臣指定伝統的工芸品の製造に現在も直接従事し、12年以上の実務経験年数を有し、原則として産地内に居住していることが条件となっている。
- 伝統工芸品とは
 - ・ 消費者が伝統的工芸品を安心して購入できるよう、経済産業大臣が指定した技術・技法、原材料で製作され、産地検査に合格した製品。伝統工芸品には、「伝統マーク」をデザインした「伝統証紙」が貼られる。
- そろばん作りについて（宮本さんは④～⑧をほとんど手作業で行っている）
 - ①軸 作 り：竹を寸法切りにし、小さく割って丸いひごに加工、磨いて仕上げる。
 - ②杵 材 作 り：主に黒檀などの固い木の原木を細かく切って、各部分に合わせた板に加工。
 - ③玉 作 り：原木を輪切りにし、丸い形に打ち抜き、さらに削って玉の形を作る。
 - ④杵 加 工：杵の板に穴をあけ、みぞを作って組み立てができるようにする。
 - ⑤中棧(さん)組み：中棧に軸（ひご）を差し込む。
 - ⑥玉 入 れ：軸に玉をとおす。
（玉のたくさん入った箱の中で、軸を差した杵を左右にゆするだけで、見事玉が軸に入る）
 - ⑦組 立 て：左右杵、裏板、裏棒などを入れて組み立てていく。
 - ⑧磨 き：固定がすめば、紙ヤスリやムクの葉で磨き艶だしをすれば完成。
- 宮本さんの言葉（インタビューから）
 - ・ 「そろばんは玉の動きが命。いかに軽く動いてぴしっと止まるか。これが難しい。玉とひごのすべり具合も職人の勘で全てが決まる。」
 - ・ 「10人いたら10人ともにとって使いやすいそろばんを作りたいが、それは不可能や。でも、1人でも多くの人に使いやすいと思ってもらえるそろばんを作りたい。だから毎日、精進せなあかん。手抜きは一切しない。もし体調が悪ければ作らない。」

4 展開の具体例

そろばんづくり —小野のそろばん—

- ・ **主 題 名** ・ 働くことの意味 C (13)
- ・ **資料の概要** ・ おもちゃにして遊んでいるうちにそろばんの調子を悪くしてしまった かず は、そろばんは簡単に機械で作れるものだと思ったまま、伝統工芸師の宮本さんの工場へお母さんに連れて行かれる。そこで、かず は宮本さんの職人技のすごさ、そろばんに込められた宮本さんの「心」を知り、働くことの意味の重さやすばらしさを感じる。
- ・ **ね ら い** ・ 宮本さんとお母さんの話を聞いて道徳的に変化する主人公を通して、働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働こうとする道徳的心情を育てる。
- ・ **展開の具体例**

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・ 本資料に興味を持つ。	そろばんで遊んでしまったことはありませんか。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の範読を聞きながら黙読をする。 ・ 母にしかられた時の主人公の気持ちを考える。 ・ 母がそろばんを差し出した時、うつむいたまま顔をあげられないでいたかず の気持ちを考える。 ・ そろばんをすぐに両手で持ち直した主人公の気持ちを考える。 	<p>お母さんにしかられて、そろばんをゴロゴロ動かしている手を止めた時、かずはどう思ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ びっくりした。そんな大きな声でしからなくてもいいのに。 ・ 何でそんなに怒っているんだろう。 ・ そろばんをゴロゴロしていただけなのに。 <p>うつむいたまま顔をあげられないでいた かず は、どんなことを思っていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日工夫しながら50年以上もそろばんを作っているのに、失礼なことを言っちゃったな。 ・ 指先の感覚で0.1ミリのちがいがわかるなんて、そろばん作りはすごい技術が必要な仕事だったんだ。 ・ ここまで使う人のことを考え、気持ちをこめて作っているんだ。知らなかった。 <p>そろばんをすぐに両手で持ち直した かず は、どんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ このそろばんには、宮本さんの使う人を思う気持ちがぎゅっしりつまっていて重みがあるな。 ・ このそろばんには、50年間の仕事の努力や工夫がぎゅっしりつまっていてずっしり感じるな。
終 末	・ 感じたことを書く。	感じたことを道徳ノートに書きましょう。

主人公は、軽い気持ちでそろばんを転がして遊んでいたことをおさえる。

そろばん作りの高い技術や職人の思いに関する宮本さんの話を聞いて、主人公が働くことの意味の重さを意識し始めていることをおさえる。

宮本さんの話とお母さんの話がきっかけとなり、働くことの意味の重さや大切さをさらに強く感じている主人公の心情の高まりをおさえる。